

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.40 2008年12月号

職業柄いろいろなセミナーや勉強会に参加する機会が多いのですが、最近出たいくつかのセミナーで気づいたことがあります。それは、講師のかたが誰かの悪口を言えば言うほど、聞いているのがつらくなるということです。講師のかたは会場の雰囲気盛り上げようとしているのかもしれませんが、お話の内容そのものがどんなに良くても、悪い印象しか残らない場合が多いように感じます。

他人の悪口というのは、多くの場合、「怒り」によって引き起こされています。以前の「毎日楽しく」でも書きましたが、仏教では「怒り」、「欲望」、「愚痴」を三毒と呼び、これを抑えることができないと、幸せな人生を送ることができないとされています。怒っていると、周りの人を不快にしますし、本人の精神面・身体面にもいい影響があるとは思えません。実際、怒りっぽい人は病気になりやすいと聞いたこともあります。ただ、明らかに怒っていれば確かに周りも不快に思いますが、誰かの悪口を言う程度であれば、逆に場が盛り上がることも多くのかたが経験されていると思います。もちろん、私もそういう経験はあります。でも、その場では盛り上がったとしても、自分のいないところで自分も悪口を言われているかもしれないと思うと、なんとなく後味は悪いですよね。たぶん、他人の悪口を言う人は結局のところ、他人から信用されていないのでしょうね。他人から信用されない人に、仕事の依頼が増えたり、商売がうまくいくとは思えません。

言葉にはちからがあります。悪い言葉を話す人からは運が逃げていき、良い言葉を話す人には運がめぐってくるそうです。だから、たとえ、心では思っていないくて、場を盛り上げるためだけだとしても、「つき」を引き寄せるためにはこうした悪い言葉を使うべきではないと思います。ただ、そういう私も他人の悪口など悪い言葉を話さないよう常に意識はしていますが、それでも口から出てしまうことはあります・・・。

2008年も残すところあと1か月ですね。みなさまにとって今年はどうな年だったでしょうか？ 私自身は、今年もみなさまに大変お世話になり、本当に感謝しています。来年もみなさまにとってよい年でありますように。

